

1 第2次磐田市健康増進計画「健康いわた21」の推進について

「健康いわた21」の取り組みは、国の基本方針の改正に伴い、第2次として新たな計画の期間を平成26年度から34年度までとして見直しされ推進されている。当取り組みは、今後の財政を圧迫する最大要因の一つになるであろう社会保障費の医療費・介護費の改善につながる重要施策と位置付け、市民と危機感を共有し、地域を巻き込んで取り組むことが必要であると考え、下記の推進理念・推進方法等について市の見解を伺う。

(1) 大きな統一目標を「お達者度 県内第1位」と掲げることにについて

当事業は、県の重点取組事業「健康寿命の延伸」に沿う事業であって、国が定義し公表している「健康寿命」では、静岡県は女性第1位で男性は2位となっており、県が算出し定義する「お達者度」における磐田市の順位は男性3位、女性16位となっている（H25.8月発表）。ここは、「お達者度 県内第1位」と目標を大きく掲げて、健康づくりを市民活動に高めたいと考えるが、市の考えを伺う。

(2) 地域に根ざした市民活動とするためのキャンペーン実施について

上記目標は、「運動」、「食生活」、「社会参加」等バランスのとれた生活が推進できてこそ実現できよう。来期より各地区、拠点が“交流センター”と統一されて地域活動が推進されることになっており、行政と地域がその交流センターを拠点に、地域活性化と併せ、協働・連携してキャンペーンを実施して推進したらと考えるが、市の見解を伺う。

(3) データ・情報の積極的な地域への開示・提供について

上述した地域に根ざした活動とするために、また、市民意識の高揚を図るためには、市民と危機感を共有してこそという面があることから、データを積極的に、しかも他地区と比較可能な形で提供することが望ましい。例として、“高齢化率は磐田市25.1%”と一口に言っても、10%台、40%台の地域があることからすれば、地域ごと事情は異なり対応策も異なってくる。市担当は多くのデータを蓄積している。そのデータを少し加工することで、当活動の目標達成に刺激を与えることのできる項目を検討して地域に提供したいものである。「地域別特定健診受診率」、「地域別要介護認定率」、「地域別一人当たりの医療費」、「かくしゃく度アンケート分析結果」あるいは「高齢者サロン参加者数・率」等健康づくり・介護予防を促進する項目を検討し表示することは有効な手法と考えるが、市の見解を伺う。